～簡単操作で長寿命な電圧リレー
新機種追加で更に使い易く～

ボルテージリレー
FVS形

カタログのご請求はこちらから ≫ news-nk@fujidk.co.jp

～特長～
●デジタルスイッチによる簡単設定
整定基準電圧をディップスイッチで簡単に設定可能。整定値はデジタルスイッチの採用により、電圧値やパーセント値がダイレクトに設定でき、誤操作も防止します。
●長寿命設計
温度影響などを考慮に入れた設計で約13年の長寿命を実現。
●電力規格B-402適合
高い耐ノイズ性能を実現し、電源変動や絶縁性能にも優れています。
●動作モニタ用LED内蔵
制御電源の有無や動作状態を個別のLEDで表示。状態が容易に確認できます。
●豊富な制御電源バリエーション
制御電源は標準品のDC100/110に加えて、AC/DC100-220Vのマルチ電源タイプもラインナップ。
●FVS-SS形を新たにラインナップ
従来では監視できなかった 200V以上の電圧やmVクラスの電圧にも対応。
最新型は過電圧と不足電圧を同一機種に内蔵し、ディップスイッチにより切換が可能に。
動作値と復帰値の個別設定も可能。

『Web EDI』インターネット販売
不二電機 Web-EDI 検索

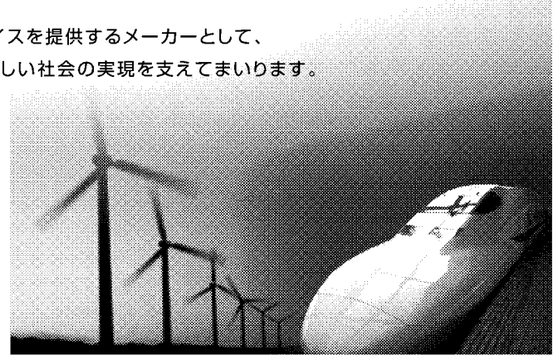
不二電機工業株式会社
ISO9001取得 ISO14001取得 E-mail:news-nk@fujidk.co.jp
お問合せはこちら ☎(077)562-1215 FAX(077)562-1213
URL 不二電機 検索
技術営業部／〒525-8521 滋賀県草津市野村3-4-1 ☎(077)562-1215 FAX(077)562-1213
東京営業部／〒105-0011 東京都港区芝公園1-1-12 芝公園電気ビル ☎(03)5401-3379 FAX(03)5401-3047

nichicon
すぐに、期待以上のこと。CanDo!

人と、地球と、技術をつなぐ。

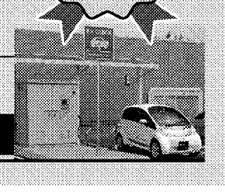
最先端分野で不可欠なデバイスを提供するメーカーとして、
確かな品質と技術力で、地球にやさしい社会の実現を支えてまいります。

For Automobiles-related Appliances
自動車・車両関連機器用



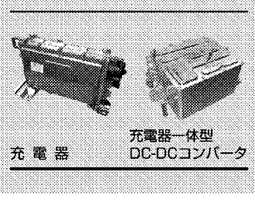
For Ecology-related Appliances
エコ関連機器用

2011電設工業展 製品コンクール 環境大臣賞 受賞
太陽電池・蓄電池併設の低圧受電型EV用急速充電システム



名神高速道路 吹田サービスエリア設置

EV用車載パワーモジュール



充電器　充電器一体型 DC-DCコンバータ

機器を支える高機能デバイス
■導電性高分子アルミ固体電解コンデンサ
■アルミ電解コンデンサ
■タンタル固体電解コンデンサ
■フィルムコンデンサ
■電気二重層コンデンサ "EVerCAP®"
■機能モジュール
■正特性サーミスタ "ポジアール"
■スイッチング電源

ニチコン株式会社
http://www.nichicon.co.jp/
京都市中京区烏丸通御池上る 〒604-0845 TEL.075-231-8461 東京支店 TEL.03-5473-5611・名古屋支店 TEL.052-223-5581・西日本支店 TEL.075-241-5370

地域から目指せ先端

マッチング仕掛け多彩 オール京都の力で

京都のモノづくりを根本から支えているのが「産学公」の連携力だ。集積された大学の〝知恵〟資源をベースに国の出先機関や京都府、京都市をはじめ京都商工会議所、京都工業会など経済団体、金融機関がそれぞれの立場で連携を促しマッチングの場を提供している。また、京都にはこうした機関が一堂に介し、オール京都体制で新事業・新産業創出を推進する「京都産学公連携機構」がある。最先端分野で事業拡大を目指す京都企業は各支援機関の仕組みを活用し多様な連携を展開している。

設立8年目を迎える京都産学公連携機構。大学や産業団体、支援機関、行政機関など44の組織で構成される。2009年には地域で産学公連携を推進する協調体制が評価され、国（文部科学省、経済産業省）の「グローバル産学官連携拠点」に選定された。広域的産学連携の中核拠点として研究開発のさらなる加速、事業化を実現し、地域産業の国際競争力強化を目指す。

同連携拠点が掲げるテーマは「低炭素社会」と「健康長寿社会」への貢献。京都に環境・エネルギーおよびライフサイエンス・ウェルネス分野の世界的拠点を形成し、知恵の拡大再生産でイノベーションを起こす。10年後には高度研究人材を1万5000人輩出し、両分野合わせ府内製造品出荷額を20％以上伸長させるビジョンを打ち出している。

京都産学公連携機構では当初の目的である大学のシーズと京都企業のニーズを結び付け、新たな研究プロジェクトを構築する取り組みを展開している。理工系の学部を持つ京都大学、京都工芸繊維大学、同志社大学をはじめ京都7大学から研究シーズを募集。担当のコーディネーターが研究の進展などを確認し、技術的に成長分野と判断できる領域には、それと結びつく企業を選出する。製品開発や技術力向上、付加価値化につながる研究など企業ニーズとのマッチングを図り、多様なプロジェクトに誘導している。

さらに連携機構では11年2月、大学で研究中の案件を企業側に向け解説する「大学シーズ説明発表会」を開催した。各大学の研究者が環境・エネルギーとバイオテクノロジーに関する17のテーマについて発表を行った。企業サイドの関心は高く、発表会後の個別相談件数が約20件にのぼるなど、前回（昨年開催）を上回る反響だった。連携機構では「今後も大学の研究シーズのヒアリングに勤め、今年度中に再度開催を目指す」考え。

連携機構 理工系の知をつなぎ 広域の橋渡し 視野に

一方、連携機構を構成する大学や支援機関には合わせて70―80人のコーディネーターが在籍している。それぞれがミッションを持ち、産学連携の要となり研究開発の推進役を担っている。連携機構ではメンバー同士が情報交換を行い、組織を越えたネットワークの構築を目指す「産学連携コーディネータ交流会」を開催。おのおのの情報や課題、対応ノウハウなどを発信、共有しオール京都でコーディネート力の向上を図っている。

京都の大学群が持つ技術力や先進性は他の地域を圧倒する。この有益なシーズを多くの企業に結びつけ地域産業の活性化につなげていくことが連携活動のテーマである。ただ「大企業には連携の認識が浸透しているもの、中小企業には情報が伝わらない現状もある」（連携機構）という。短期的に達成可能な連携の仕組みづくりを急ぐ一方、蓄積された成果やノウハウの継続的なアピールが求められる。今後は「ネットワーク外の企業へも情報発信し関係を構築。機構の存在や連携活動に対する理解を深めていく」（同）としている。

上京都産学公連携機構のグローバル拠点推進室が実施した大学シーズ発表会（2月）　下10年の産学公連携フォーラム

京都工業会 埋もれた〝種〟発表の場提供

京都工業会はモノづくり企業のネットワークを拡充し事業活動の基盤強化を目指す。今年度の事業方針には、人材育成や経営国際化の推進などとともに産学公連携を主要テーマに掲げる。

産学公連携の取り組みでは京都府、京都市、京都商工会議所をはじめ京都8大学と共催で開催する「産学公連携フォーラム」の運営が工業会中心に行われる。通算で10回となる今年の同フォーラムは11月18日、京都工業会館（京都市右京区）で開催を予定している。テーマは「京都発。新産業・新技術の創出を目指して」。ニチコンおよび産業技術総合研究所から講師を招き「節電社会に向けての自然エネルギー活用技術」に関する講演会が行われる。

さらに、従来から進めてきた参画8大学によるシーズ発表会に加え、今回は企業が抱える研究・技術シーズの発表会を企画している。日新電機や島津製作所など、工業会会員企業が有する技術シーズを洗い出して開放。産産連携や産学連携を通じて他社での事業化や大学での研究開発に役立てる橋渡しをする。事業化のハードルが高く研究開発を縮小、断念した技術に再度光を当てて事業化や研究開発の継承に道を開く。

一方、2011年7月には京都商工会議所、京都経営者協会、京都経済同友会、京都工業会の経済4団体の共同事業として「地球環境問題シンポジウム」が開催された。昨年に続き2回目。シンポジウムでは京都府、京都市の温暖化対策担当者が「地球温暖化対策条例で行政は中小企業に何を求め、どんな支援を行うのか」を講演。さらに企業の成長、発展につながる環境経営をテーマにパネルディスカッションを行うなど、地元中小企業へ地球温暖化対策への機運醸成を図った。